

平成23年度 第3回社会教育委員会議 会議録

平成24年3月27日(火) 13時30分 庄内町役場立川庁舎「大会議室」に社会教育委員を招集し、社会教育委員会議を開催。

1. 出席した委員は次のとおり。

富樫良秋、齋藤良一、椎名和美、佐藤富美、佐藤啓子、石井玲子、井本美和子、田澤啓二、志田啓子、廣田幸記、秋葉俊一

2. 欠席した委員は次のとおり。

堀江信、志田征子、今野美恵子

3. 出席した職員は次のとおり。

社会教育課長吉田健一、課長補佐阿部勉、主査兼社会教育係長佐々木弘喜

4. 会議の次第は次のとおり。

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事録署名委員の指名
- 4 協議
- 5 その他
- 6 閉会

5. 協議事項は次のとおり。

- (1) 平成24年度 庄内町社会教育の基本方針と重点施策(案)について
- (2) 笑顔で元気なあいさつ運動アンケート結果について
- (3) その他

6. 会議の内容は次のとおり。

13時30分 開会

社会教育課長 開会

富樫議長よりあいさつをお願いします。

富樫議長

年度末のお忙しい所、しかもあまり天気が良くない所をお集まりいただきありがとうございます。3回目の年度末の会議ですので、あまり時間がかからないように上手に進めたいと思います。充分にご意見を出していただきたいと思います。

社会教育課長

池田教育長よりあいさつをお願いします。

教育長

地震と津波とそして原発の今年度であった。社会教育にも激震があり、総合型スポーツクラブの問題についてはご迷惑とご心配をおかけしました。

課題が色々ありまして、総合型スポーツクラブの育成も町の予算を確保しながら支えています。自主団体として色々な事業をやって、いままで町でやっていたものを自分たちでやっていく方向であり、世の中がそう言う動きであります。体育館長とクラブの理事長を兼ねているが、ここ一二年繋ぎのところは認めていただき、人と物の両方で支えながら総合型スポーツクラブを立ち上がったばかりですので支えていきたい。

地域づくりの課題については、コミセン化が進んでいる他市町もあるが、公民館を残して社会教育をやりながら、地域づくりもやっていく考え方をしています。公民館の主体性を大事にしながらやっていきたい。来年度から具体的に説明に入り地域の理解を得て行きたい。

色々な課題がありますので、皆様のご意見をよろしくお願いいいたします。

社会教育課長

議事録署名委員の指名から、座長の方を富樫議長さんからお願いします。

富樫議長

議事録署名委員に田澤啓二委員、志田啓子委員をお願いします。

富樫議長

さっそく協議の方に入ります。平成24年度庄内町社会教育の基本方針と重点施策（案）について、事務局の説明をお願いします。

課長補佐

平成24年度庄内町社会教育の基本方針と重点施策（案）を資料により説明。

富樫議長

最初に質問がありましたら、お願いいたします。

委員

歴史民俗資料館の来場は近年どのような動向か。7月8月しか開館しないとの説明であったが、睡眠状態の会館になるのでは。絵画とかもっと活用する方法を検討する余地があるのでは。

富樫議長

来館者の人数についてお願いします。

課長補佐

亀ノ尾の里資料館は平成17年から約3,000人で推移しているが、歴史民俗資料館は、平成17年は1,700人ほどの利用がありましたが、平成21年は744人、平成22年は922人で半減している状況です。

委員

民俗資料館でなく、横文字を使った名前の会館にして、絵画や写真展等、イベントを開催する方法は無いか。開館期間も短く、空気の出入りも無ければ朽ちていくのでは。

社会教育課長

歴史公園整備検討会の中で、資料館のことも協議していただいたが、類似性のある施設が町内に二つあり、歴史民俗資料館は山の上であり人目に付かない位置的条件や費用対効果を考慮しながら、どのような活用が良いか。

高橋兼吉が建てた旧役場を解体復元したもので建物も貴重である。民俗資料については、亀ノ尾の里資料館に統合すべきではとの意見も頂きました。資料館運営協議会からも、当初は閉館で検討を始めたが、子ども達の夏休みの期間、帰省客が訪れる期間だけでも開館をしてはどうかとの意見でした。施設の管理については、資料館専門員やシルバー人材センターの職員が当たってきたが、開館期間以外も定期的な施設の維持管理に十分に意を尽くして行きたい。

企画展は、和の美として風呂敷、帯、刺し子を色々な団体の協力を頂きながら、サークルの展示によって人の交流で入館者の増加に努めてきた。23年度はギャラリー的な利用の方法はどうだろうと芸術文化協会の協力で、写真、絵、書道の展示をしてギャラリー的な活用で入館者の増加に繋げてきた。来年度については、二ヶ月間の模様を見ながら、資料館運営協議会の意見を聞いて、今後のあり方については、判断をして行きたい。

委員

ぜひ活気ある運営をお願いします。

委員

十年ほど前に知ったのですが、明治天皇が行幸した絵が余目町の八幡神社にあることを。去年秋、亀ノ尾の里資料館で見学し、当時、写真が撮れず絵に描いて残してある貴重なものを子ども達にも見てほしい。絵馬の展示もあり、古い家に埋もれているものを掘り出して、説明を聞きながら見られたらと思う。

社会教育課長

町の文化財展として、清河八郎関係の書籍や資料展示、絵馬の展示もしました。八幡神社の絵馬は町の文化財になっており、東北芸工大で修復したことでテレビでも話題になったりした。文化財になっていない物も、神社や集落から借りて展示した。できるだけ、町の文化財に親しんでもらうため資料館として町の文化財展を続けて行きたい。

委員

町の文化財を見られる展示場所として良い。

芸術文化協会の50団体を少しずつ町広報に掲載し、会員募集を図りたい。高齢化と会員の減少傾向があり、若いグループの会員が少ない。若い人に声をかけて、増強、拡大に取り組んでいただきたい。

委員

老人クラブの活動が、限られた人になりつつあり、その年代になっても入らずこのままだと集落から老人クラブが無くなるかもしれない。社会教育の面から、趣味だけの会でいいのか、地域でどう取り組んで行くかが大きな課題となっていると思う。今の社会保障と同じで、下の支えがない。地域の中で組織活動にどう勧誘をしてやっていくかを考えていかないと、災害の発生時に集落に組織が無いと大変なことになると思う。

委員

老人クラブ連合会に余目は8割方加入しているが、狩川は8割方脱退している。横の連携が無く、地区全体のイベントも出来ない。はたしていいのか、なにが欠点なのかというところもむずかしい。

教育長

老人クラブの課題としてつかんでいると思うが、生涯学習の中にはいっているのか、もう一つの課題として自分の好きなことだけ学べば良いという考えではない。地域づくりと社

会教育の考えを繋げて整理して、公民館を中心に地域づくりとの話し合いを進めようと考えている。

委員

婦人会も繋がりが無いんです。目的団体でないので、色々なものを地域の為にやっているが、繋がりを重要視しないと地域のためにならないと思う。ばらばらになって、いま防災が言われている社会で繋がりがなくなっていく。

社会教育課長

社会教育としては、生涯学習の中の高齢者教育として捉えている。栄寿大学については、老人クラブの推薦で行っているが、人数も少なくなっている状況である。松寿大学も固定化して若い人が入らず、減って来ている。

委員

楡引地区の婦人会は全戸加入でやっている。黒川能の関係もあるかと思うが。

教育長

黒川能を中心に生涯学習を進めている。昔から仕掛けが出来ており、そういう作りをしてきた。
老人クラブの問題は、社会教育としてこうしたいという考えはあるのか。

社会教育課長

老人クラブの担当課としては、保健福祉課とか社会福祉協議会がやっていて社会教育としては、高齢者教育としてやっている。

教育長

社会教育としては講座として捉えており、組織の育成まではやっていない状況。

委員

社会福祉の方で、てこ入れが出来るかとなるとそれも難しい。お互いが力をいれないと、我々が願う物はできない。

教育長

社会福祉の集まりで検討していかないとならない仕組みになっている。

委員

社会福祉協議会にもかつて提案したが、出来なかった。

教育長

それぞれ分担してやっているが、課題については連携をしていかなければと思います。

委員

栄寿大学の入学に老人クラブの推薦が必要なのかも見直しを考えていくべきでは。

委員

レポートの提出があるようだが、それも入学の難問になっているのでは。一年で終わること、指導力も身に付かないし、部落にも推薦来ていたようだが加入年齢を掘下げないと。

社会教育課長

老人クラブの推薦について母体が無くなって来ているとのお話があったし行政区長さんにも募集をお願いしている。栄寿大学と松寿大学の違いについては、係長会議で検討していきたいと考えている。

委員

町の敬老会は70才以上になっているが、貢地目部落では若年高齢者との交流に係るため65才に下げて実施予定している。老人クラブへの反映も考えている。

委員

各学区に連合会があり、その人達に働きかけをするが、働きかけをどこでするかだ。

委員

加入依頼を担当者だけでやっていたが、会長と同行して行うことにした。70才前後が入らない状況であるが、団塊の世代に強く働きかけをしていきたい。

委員

栄寿大学に入ってみたいと思っても、推薦とか、ある程度の年齢に達しないと等を聞くと、誰でも入れないのかと感じた。枠が無かったら、もっと希望者はいると思う。大学関係では枠を取り去って、60才以上とか見直していただきたい。引き上げて行くとか、入りやすくするとか考えていただきたい。

委員

区長さんに通知を出すことは大事だが、そのまま老人クラブに渡されても困るし、集落の中で人選をしてもらわないと参加者は増えない。

委員

区長さんを通すことも大事だが、町広報等で募集はできないのか。

社会教育課長

1年入ると卒業し、第何期の同窓生として会を作っていて、一回入ると又入るという事は無い状態になっている。

教育長

そういう枠組みがおかしいから変えたらどうだろうかと言っているので、担当が課題としてとらえているかだ。

委員

1年よりは、もう少し参加したいと思った人はいままでいなかったのか。3年までとかわして、1年ずつにこだわらないでほしい。

委員

これまでの流れでは、1年の大学生活で後は同窓生として活躍の場はある。問題は老人クラブの推薦で成り立っているところもあり、その枠を取り払うかである。

教育長

ねらいがリーダー育成であるが、入りづらいところもあるので、枠組を考えたらとの意見であります。担当だけで、今までの歴史と伝統があり簡単に変えられない所もあるので、社会教育委員会に諮問する方法もある。担当の考えもあるので摺り合わせが必要である。

富樫議長

だいぶ、方針と重点について意見がありましたが、他にございませんか。

委員

歴史民俗資料館には、砂金の資料、北楯大学の資料があり、見られていたが2ヶ月の開館となり、忍びがたい。歴史公園整備検討会報告書が出されたが、旧小学校をどうするか地区で検討している。資料関係を集中して歴史公園にと熱意を持って取り組んでいる。

教育長

資料館運営協議会で2つの資料館の運営のあり方について話し合いを行い歴史民俗資料館については2ヶ月の開館とする結論となった。しかし、色々な活用の方法があることから、歴史公園との繋がりや全体像はどうあるべきか、広く検討する組織をつくりながら進めていきたい。

社会教育課長

歴史公園整備検討会では、教育施設をどう活用していくかを論点に検討したが、町全体の計画とするために、町づくりや観光等を含めて相談を進めたい。立谷沢川流域関係で歴史ふるさと構想検討事業の調査もあるようですので、状況をみながら進めたい。

委員

歴史民俗資料館の開館時期について、2ヶ月だけでなく必要なときは開館できる方法をとっていただきたい

委員

楯山公園の桜まつりの時期は開館していただきたいし、グラウンド・ゴルフの大会もあるので見ていただきたいしPRすべきではないか。

社会教育課長

今日出された意見については、資料館に伝えて対応できるか検討させていただきます。

委員

公民館の指定管理について、地域づくりではやらないとはっきり決まったのか教えてほしい。

社会教育係長

ガイドラインには公民館の指定管理者制度と載っているが、急に指定管理者へは無理だろうということで、当面はソフト事業の委託で考えている。将来的に条件が整えば指定管理も考えられるが、当面はソフト事業の委託でお願いしていきたい。

教育長

見通しは指定管理者制度を目指している、体制が整えば。あくまで地域が主体となりやってほしい。当面は社会教育の事業を地域に任せて行きたい。内容は地域で考えていただき、地域づくりといっしょにやっていただきたいという考え方をしている。

富樫議長

いろいろ意見がでましたが、文言には現れないが、教育委員会に出すときに充分伝えていただきたいと思います。

次の協議事項（２）笑顔で元気なあいさつ運動アンケート結果について、説明をお願いします。

課長補佐

笑顔で元気なあいさつ運動アンケート結果について資料により説明

富樫議長

次年度も続ける事が大切であるが、社会教育としてどう取り組んでいくか。計画として具体的にどうするか。

委員

P T Aで事業の一つとして取り組んではどうか。家庭での教育が大切である。

富樫議長

具体的に町民みんなで取り組んでいる姿が見えるような、町民会議からも取り組んでもらう等、町ぐるみでやっているところがほしい。

教育長

社会教育では何のためにあいさつ運動をするのか、学校では課題となっている人間関係づくりにはあいさつから始まると考え、学校でしかないあいさつを地域でするように、大人からあいさつをしようとして取り組んでいる。社会教育でも、考え方を明確にして取り組むべきである。

社会教育課長

アンケートでは冷めた見方をしているが、公民館などは町民と接する窓口でもあるので、あいさつは人間関係づくりに一番大切なものと考えている。色々な集まりでお知らせしながら呼びかけて行きたい。

委員

重点施策の中でどこにあいさつが入るのか、庄内町の子ども像の具現化あたりと思うが、社会教育としてやっていくと考えると、地域に対して冷めた目があるのはいかなるものか。意識付けをさせていくのが社会教育だと思う。庄内町ではあいさつのできる人づくりをし

ている町として、意識づけの事業展開をして意識化の手立てをしていかなければならないと思う。

教育長

職員には、お客様に自分からあいさつするように指導している。話が長くなるようであれば座ってもらうような、職員への意識化の指導をしている。地域への呼びかけ等は色々考えてやっていきたい。

委員

大人は恥ずかしいのか、あいさつを子どもより先に出来ない、封建的などころがあるので。家庭で大人から率先してあいさつをしていかないと浸透していかない。

委員

先日体育館で立川中学校の生徒から、元気なあいさつを受け、成果がこれなんだと気づかされた。幟の痛みを見ると、1年中でなく、月の初めとかメリハリのある運動が良いのでは。

委員

除雪をしている時に、ひまわり園に通う男の子からあいさつの次に言葉をかけられ温かく感じた。町全体がどういう状態か、商工会のアンケート結果も見たかった。意識付けや高まりを把握し、次年度の計画を考えなければ。大人の意識付けが薄いことが課題である。アンケートの中の質問5は「家族からも協力してもらおう」ではなく、「家族の意識付けの強化」とか、「大人の意識付けの強化を図る」にすべきでは。社会教育施設の結果は、視点が子どもに限った所が残念で、地域の大人がどうなのか見えない所がある。

教育長

たかがあいさつ運動であるが、コミュニケーションだけでなく人間の成長に大事な役割を果たしていることを共通認識しながら、本気でやろうとする気があるかだと思う。

委員

社会教育施設の「変化がなかった」の回答が多かったが、「変化をしていこう」という目標を立てて取り組んでほしい。

委員

猿田に住んでいるが、おじいさんおばあさんがみんなあいさつをする。あいさつ運動も浸透したのかなと思っていた。

教育長

子ども達はあいさつするようになった。大震災を契機に生活態度が変わってきている。

富樫議長

あいさつ運動についてお聞きしました。社会教育課としてどう取り組むかを早く出してほしい。あいさつ運動を来年度も頑張ろうということで閉めたいと思います。その他で委員の皆さんからありましたらお願いします。

委員

各公民館で館報を出しているが、図書館や公民館に行かないと見れないが、町のホームページに第四公民館の「ほなみ」だけ掲載されているが、他の公民館も掲載してほしい。

委員

狩川公民館にも他の公民館報を置いてもらいたい要望を出しているのでお願いしたい。

富樫議長

これで会議を終了します。

16時10分 閉会